広報 かも
No.653
平成22年 11

第54回 加茂市小学校音楽発表会（11月11日）

主な内容

■ クマ除けの鈴を1個400円で販売いたします ❷❸
■ 第43回 市展　市展賞受賞作品紹介 …… ❹❻
■ 秋の叙勲 …… ❼
■ 第７回 加茂菊花展開催 …… ❽
■ 総体の結果 …… ❾
■ 加茂の風土記 …… ❿

加茂病院は加茂市の宝　加茂病院を盛り立てましょう

# 全市民の皆様にクマ除けの鈴を一個四百円で販売いたします。加茂市の各施設で、一年中販売いたします。

今年は、ドングリが不作のためか、あるいはクマの数が増えたためか、クマがたくさん出没し、山中や山に近い地域が危険となりました。

加茂市では、市民の皆様をお守りするため、やむを得ずクマの捕獲を行い、十一月末日までに、十五頭を捕獲いたしました。

また、危険地域のすべての小中学生に「クマ除けの鈴（ベル型）」を無料で配付いたしました。

クマ出没の危険は、今後とも続くと思われますので、加茂市では、小中学生に配付したものと同じ「クマ除けの鈴（ベル型）」を一年中加茂市の各施設で販売することといたしました。

販売する鈴（ベル型）は、鳴り具合が一番良い

1個400円で販売する「クマ除けの鈴（ベル型）」

型のもので、加茂市の購入価格は、一個四百九円五十銭ですが、これを一個四百円で販売するものです。

次に掲げる加茂市の施設で平成二十三年一月初めから一年中販売いたしますので、御自由にお買いいただきたいと存じます。

**「クマ除けの鈴（ベル型）」**

**販売場所（一個四百円）**

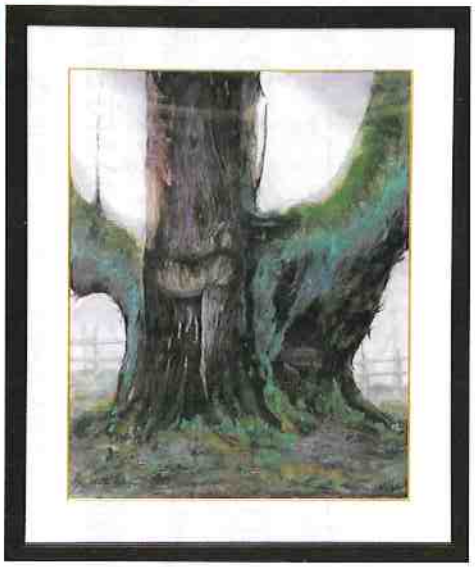
加茂市役所（総務課、農林課、商工観光課、市民課）、市民サービスセンター（上町）、加茂土産物センター、公民館、図書館、文化会館、各コミュニティセンター、加茂美人の湯、かも川荘、ゆきつばき荘、勤労青少年ホーム、冬鳥越スキーガーデン

# 第43回 市展
## 市展賞受賞作品紙上紹介

**日本画**

「生」 番場　仁 さん

**洋　画**

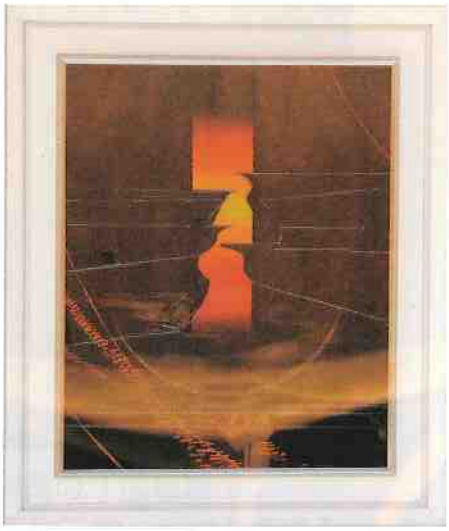


「将軍杉」 小林喜美子 さん

**書　道**　「山家集より」 小林　俊江 さん

**彫　刻**

「尚」 渡邊　尚子 さん



**工　芸**　「帳」 斎藤　勝吉 さん

**写　真**

「花畑の兄弟」 田中　寅次 さん

第四十三回市展の各部門で市展賞を受賞された皆さんから、受賞された感想や作品についてのコメントをいただきましたのでご紹介します。

## 日本画

### 「生」

番場　仁さん（横江）

この度、私の絵に対するコメントを求められましたが、私はむしろ観てくださった方々の感想がお聞きしたいところです。

自分の理想を表現する、これが美を究める者の心と思っています。

御意見がありましたら、お聞かせいただければ幸いと存じます。

この道はどこまで行ってもこれでよいということはありませんが、いかに自分の理想を表現できるか、生ある限り求め続けたいと思っております。

## 洋　画

### 「将軍杉」

小林喜美子さん（田上町）

今年の初夏に巨木といわれている将軍杉を見に行って、見るなり「ワァー」と声を上げてしまいました。数百年生きてきた樹木、歴史さえ感じながら、圧倒しつつ幹の周囲を一周、何ヶ所か修復がされており、この樹木にまつわる人達の思い、愛情が見うけられ、歴史を続けていると思いました。樹木の太さ、コケの上がり、コケの付き具合、こぶの深さ「ただのこぶ、顔、人の顔、見る人によってちがうなぁ」と思った。これがこぶの特徴かも「面白いなぁ」と呟いた。視点を変えて何枚かスケッチを描き、写真を写し、帰って、思考作、まだ分からないので一ヶ月後に又行って、スケッチを描いて来ました。

私は若い頃から出かける時にはカバンに小さなスケッチブックを入れる様に心掛けスケッチを描いてきました。藤の会のサークルのお仲間に入れさせてもらってから三、四年経ちます。

諸先生の御指導と皆様のアドバイスをお聞きしながら描き、幹とこぶのつながり、あれこれ思考作をしながら、初めは十号に描いていましたが、三十号に描いてみました。夢のような賞を頂戴するとは思いもつきませんでした。

名誉ある市展賞を頂戴しまして今でも夢を見ている気持ちです。

諸先生の御指導、サークルの皆様のアドバイスをお聞きしながら、これからも精進していきたいと思っております。

本当にありがとうございました。

## 彫　刻

### 「尚」

渡邊尚子さん（三条市）

このたびの加茂市展への出展作品は、日々の忙しさに追われて、搬入ぎりぎりまで製作にかかっており、会場へ運び入れた時には、今年も何とか出品できたと、ほっとした思いだけで、このような賞をいただけるとは夢にも思っていませんでした。

彫塑を始めたきっかけは、学生時代の友人から誘われ、本当に軽い気持ちだったのですが、ご指導いただいている先生や、一緒に作品を作っている皆さんとの時間がとても楽しく、途中で中休みをすることはあっても、ここまで続けてこられました。

このたびの市展賞も、自分自身の力というより、先生や月遊会の皆さんに支えていただいたおかげで受賞できたと思っています。

これからも、楽しみながら続けていきたいと思います、本当にありがとうございました。

**新潟日報美術振興賞**

日本画「奥入瀬渓流」田浦清堂（若宮町１）
洋　画「芽吹の猿毛岳」皆川孝一（第１区）
彫　刻「HiRo」泉　晴美（三条市）
工　芸「静穏」塩野明美（第24区）
書　道「漢詩」馬場範子（番田）
写　真「始めてのランドセル」岡田厚子（青海町１）

## 工　芸

### 「帳」

斎藤勝吉さん（矢立）

五年前に加茂市展の会場で、以前より顔見知りの漆芸家で御活躍の中村先生にお会いする機会があり、その折に兼ねてより念願の漆を教えていただきたいとお願いしたのが御指導いただけるきっかけになりました。全くの素人で、手や顔が漆にかぶれながら週一度の先生のお宅へ通うことになりました。

無器用な私に本当に優しく、丁寧に、解りやすく「技術」を、後に「デザイン」を御指導いただき、今日につながってきました。

「帳」は仕事を始めてから五ヶ月位かかりましたが、改めて、漆の凄さと美しさを知ることとなりました。沈み行く夕陽の中に迫りくる夜の帳をデザイン的に表現しました。先生から御指導いただきながら無我夢中で、漆を研いでは塗り、を何度も繰り返し、表面を平らに研ぎ、最後に艶を上げて仕上げました。市展賞をいただき、嬉しいやら、恥ずかしいやらで面食らっています。

先生の御指導の賜と感謝しています。ありがとうございます。

## 書　道

### 「山家集より」

小林俊江さん（三条市）

このたびは、思いがけない賞をいただき大変驚きました。作品は、西行の歌の中から好きな歌を選び、古典を基調にして書いたものです。情景を想い浮かべながら歌の世界に入り込んで、一気に書き上げました。この料紙が三枚しか無く、最後の一枚は思いっきり楽しんで書こうと思って描いた作品が、栄誉ある賞をいただきました。

私は、下田教室に通って十七年になりますが、先生作の書塾数え歌の中にこんな歌があります。

「七つ　なかなかうまくならぬとくじけるな　亀の歩みも兎を越すよ、兎を越すよ」「八つ　やめよかやめよかと迷いどいつか続ければ思わぬごほうびあるものぞ、あるものぞ」私は兎を越せない亀ですが、これからも下田先生はじめ皆様のご指導をいただきながら精進してまいりたいと思います。

## 写　真

### 「花畑の兄弟」

田中寅次さん（仲町）

このたびは、ようやくにして、写真部門の市展賞をいただき、悦びとともに感激しております。ありがとうございました。賞は幾人かの写友に置き去りにされ、長い間、賞を待ち続けてまいりました。今は、ようやく安堵しております。

受賞作品は何年か前のクラブの撮影会の途中で、下田地ののどかな花畑で子供達を見つけ、モデルを頼み、色々と注文を付け撮影した中の一コマです。

写真が唯一の趣味で老齢ですが、まだまだ頑張ります。ありがとうございました。

## 奨励賞・振興賞の皆さん

**奨励賞：日本画**　「柱頭」伊藤武之（若宮町１）、「桐たんす」金子昌寿（三条市）
**洋画**　「ひととき」金井ユキエ（都ケ丘）、「海・出航」岩野芳枝（上３区）
**工芸**　「あつい夏」渡辺幸子（本町）、「秋冬」永井光雄（柳町１）、「霧舞」淺野絹（若宮町２）
**書道**　「唐詩三首」相波富喜（小橋２）、「『奥のほそみち』より」難波順子（若宮町１）、「高啓の詩」下田彩水（幸町１）、「許渾の詩」河内敦子（新町２）、「唐詩」山田敬子（旱田）
**写真**　「煌き」鈴木與一郎（新町２）、「粲粲」乙川知昭（黒水中区）、「散歩」鈴木昌也（新町２）、「火祭りの序章」中野恒之（青海町２）、「こわいよー」遠藤勝（三条市）
**振興賞：書道**　「臨『祭姪文稿』」小嶋ゆかり（新津南高）、「臨石門頌」中山梨沙子（加茂暁星高）

# 秋の叙勲

公共のために尽くしたとして、秋の叙勲において加茂市からは二名の方が受章の栄誉に輝きました。その足跡や喜びの声をうかがいました。

## 瑞宝双光章
（教育・スポーツ振興功労）

**藤田道郎**さん
（番田・80歳）

「昨年、生涯スポーツ振興で文部科学大臣表彰をいただき、もらい過ぎと思っていた。市、県のためには多少なりとも裏方として尽くしたのかなと思うが、国に対しては思い当たらない。図らずも今回受章の栄誉に浴し、多くの皆様のお陰と感謝し、これで家内に追いついたのかな」と、平成十七年春の小枝子夫人の調停委員功績による藍綬褒章受章に続く叙勲受章を喜んでいます。

藤田さんは、公立中学校教諭の傍ら、加茂スキークラブの事務局を務め、さらに下越協議会の事務局も担当、昭和四十九年から平成十四年まで県スキー連盟理事を務めました。また、加茂スキークラブ会長を昭和六十年から十一年間務め、現在も県スキー連盟顧問とスキーにいがた編集委員を務めています。「年鑑スキーにいがたの編集が大変だが、なかなか若い人にバトンタッチできない」と苦笑し、一番の思い出は「冬の国体で、初の総合優勝した平成三年の魚沼国体が印象深い」と言います。また、スノーボード、ハーフパイプ公認審判員一期生として資格を取得、平成七年の第一回全日本選手権大会以降三回の苗場大会や平成十一年のW杯開催に当たり、中心的役割を果たしました。

さらに教諭在職中は、野球、陸上の監督歴も長く、交通安全の歌など作詞の受賞歴もあり、市の総合体育大会バッジ図案や青少年育成団体連絡協議会マークも作成、葵中賛歌・応援歌の作詞など、藤田さんのマルチ人間ぶりがうかがえます。

## 瑞宝単光章
（消防功労）

**大湊石次**さん
（岡ノ町・70歳）

二期六年務めた副団長を含め、四十年近い消防団活動に対して贈られる叙勲受章について「本当に周りの皆さんから守り立てていただいたお陰です」と感謝し、長年陰で支えてくれた家族にも感謝を口にします。

大湊さんは、昭和三十七年五月に手引きポンプに代わり自動車ポンプが地元分団に配備されることに伴い、運転手として白羽の矢が立ち「地域のため」と、家族の反対を押し切って消防団員になりました。初めてのポンプ車は廃車寸前のアメリカ車で、運送会社に勤め機械に詳しい大湊さんでなければ扱えないようなもので、大事な出動時にエンジンがかからず苦労したそうです。

消防団活動で、何と言っても一番印象に残っているのは「昭和四十四年の加茂川大水害で、二階に取り残されたおばあさんを背負って助け出したものの、濁流があふれ増水し、身の危険を感じるなか、もし転んだりしたら二人ともどうなったか」と、悪夢を振り返ります。また、消防団員の資質向上を図る教育訓練部員として部下団員の指導育成に大きく貢献しました。

現在は、民生・児童委員を務め、地元老人クラブの会長も務めています。「認知症にならないように週一回の老人会の集まりは欠かさず、地区の仲間づくりとコミュニケーションを図ることは非常に大切なこと」と率先しています。

そうした傍ら、天気が良ければ西加茂の農舎に自転車で出かけ、足腰を鍛えつつ農機具の修理・整備などを行い、好きな機械いじりを楽しんでいます。

# 第7回加茂菊花展

## 8部門　百六十一点を展示

今年は、猛暑の影響で菊をはじめいろいろな植物で苦労の多い年だったそうです。それでも菊愛好家の皆さんの丹精こめて育てられた菊百六十一点が、十一月六日から二十三日まで、会場の冬鳥越スキーガーデンに集まりました。八部門の優秀賞のうち、総合賞として「中菊」部門の作品に市長賞が贈られました。

総合賞および各部門ごとの入賞された皆さんは次のとおりです。（敬称略）

**【総合賞】**市長賞「中菊・弥彦作り」大竹与市（新潟市）二等賞「懸崖・草枕」小野福四郎（中鵜森）三等賞「厚物三幹・国華越山」大竹与市

出品各部門

**【管物三幹】**優秀賞・大竹与市（新潟市）一位・大竹与市　二位・牛田豊作（田上町）三位・石倉広茂（新潟市）、大竹与市　**【厚物三幹】**優秀賞・大竹与市　一位・桜井美千代（新潟市）二位・大竹与市　三位・牛田勝（田上町）、安中朝次（上町）**【懸崖】**優秀賞・小野福四郎（中鵜森）一位・渋谷忍（新潟市）二位・近藤謹市（新潟市）**【七幹立】**優秀賞・牛田勝　一位・石倉広茂　**【盆栽】**優秀賞・酒井正博（新潟市）一位・松澤ヨシイ（長岡市）二位・酒井正博　三位・酒井正博　**【中菊】**優秀賞・大竹与市　一位・牛田豊作　二位・大竹与市　三位・安中朝次　**【だるま・福助・切花】**優秀賞・大竹与市　一位・大竹与市　二位・大竹与市　三位・石倉広茂、近藤謹市　**【木付け】**優秀賞・清水清松（上下条）一位・清水修（上下条）二位・安中栄五郎（上下条）三位・涌井秀一（上下条）

市長賞の「弥彦作り」
（中菊・大竹与市さん）

二等賞の「草枕」
（懸崖・小野福四郎さん）

三等賞の「国華越山」
（厚物三幹・大竹与市さん）

色鮮やかな菊を鑑賞に大勢の来場者がありました。

# 総体結果

## バドミントン

**期　日**　九月二十六日
**会　場**　勤労者体育センター

**【シングルス】**▼少年男子の部①川崎悠矢（加茂西小）②志田楓馬（加茂西小）▼少年女子の部①丸山悠佳（加茂小）②泉田紋里（加茂小）③西倉志保（石川小）、港由布子（石川小）▼高校一般男子Aクラス①林達也（勤少）②丸山直樹（勤少）③本間達也（勤少）、川上宗明（勤少）▼高校一般男子Bクラス①滝沢寿樹（加茂農林高）②岩瀬和宏（勤少）③下村英輝（勤少）、大久保和司（勤少）▼高校一般男子Cクラス①森田新一郎（AOI）②渡辺弘貴（バチスタ）③本間孝行（加茂農林高）、荒井裕希（AOI）▼高校一般女子Bクラス①田下仁香子（AOI）②佐々木智子（AOI）③近藤京子（AOI）、渋谷優希（新潟第一高）▼高校一般女子Cクラス①押川愛音（加茂農林高）②五十嵐日出美（加茂農林高）③知野香奈子（加茂農林高）、渡辺南美（加茂農林高）

**【ダブルス】**▼小学生女子の部①丸山悠佳・泉田紋里②西倉志保・港由布子③大野愛珠・樋口あみ（加茂西小）、川崎里奈・吉澤優果（加茂西小・加茂小）▼高校一般男子Aクラス①堀川一樹・丸山直樹（勤少）②高井研二・川崎直仁（勤少）③木嶋一浩・長谷川毅（勤少）、阿部真也・樋口利之（勤少）▼高校一般男子Bクラス①霜鳥祐介・滝沢寿樹（加茂農林高）②小柳伸介・柳生田亘（勤少）③森田新一郎・古川真澄（AOI）、坪谷竜次・小柳裕司（加茂農林高）▼高校一般男子Cクラス①渡辺弘貴・半田吏（バチスタ）②難波勝司・丸山崇志（加茂小PTA）③保坂裕一・石原祥多（KBS）、清水司・中山幸則（加茂農林高）▼高校一般女子Aクラス①澤野可織・高橋聖美（勤少）②村越由紀子・藤田倫子（勤少）③南澤円・古源嗣美（勤少）、小川留未子・鈴木沙絵羅（勤少）▼高校一般女子Bクラス①近藤京子・田下人香子②鈴木和子・迚野和佳子（AOI）③古山一美・番場由美子（あひるの会）、高橋泉・圓山美樹（新潟第一高）▼高校一般女子Cクラス①川田良子・五十嵐真喜子（AOI）②横山文江・嶋田弓子（AOI）③鈴木千佳・江田美佳子（スポ少）、押川愛音・知野香奈子

## 柔　道

**期　日**　十月三日
**会　場**　下条体育センター

**【個人戦】**▼小学生の部（33kg以下）①横山拓巳（加茂小）②原竜弥（石川小）③有本みのり（加茂小）▼小学生の部（49kg以下）①横山哲太（加茂小）②有本友也（加茂小）③岡雄大（加茂西小）▼小学生の部（50kg超）①新井恒稀（加茂小）②小林慎之介（加茂小）③中林成希（加茂小）▼高校・一般の部①高山誠太（加茂柔道会）②白井直行（加茂柔道会）③河田陽介（加茂柔道会）

**【団体戦】**▼小学生の部①柔道スポーツ少年団B、柔道スポーツ少年団D③柔道スポーツ少年団C

## 剣　道

**期　日**　十月十日
**会　場**　下条体育センター

**【個人戦】**▼小学生三・四年生の部①時田遼馬（加茂小）②王兆龍（加茂南小）③港敦史（石川小）、涌井雄大（下条小）▼小学校五・六年生の部①増井春妃（下条小）②高橋聡希（下条小）③林美琴（七谷小）、渡辺彩菜（七谷小）▼中学生の部①増井龍太郎（葵中）②難波聖也（葵中）③岡田風太（葵中）、諸橋俊貴（葵中）▼高校・一般の部①藤田篤郎（加茂農林高）②川村龍太郎（加茂農林高）③河田晃（加茂農林高）、笠原直行（加茂剣道会）

**【団体戦】**▼小学生三・四年生の部①下条剣士会②加茂剣士会▼小学校五・六年生の部①下条剣士会②つつじヶ丘剣道教室▼中学生の部①下条剣士会A②下条剣士会B▼高校・一般の部①加茂剣道会B②加茂剣道会A③加茂剣道会C

## グラウンドゴルフ

**期　日**　十月十一日
**会　場**　リバーサイド加茂GGコース

**【個人の部】**▼一般男子の部①中野銃護（陣ヶ峰C）②小池正友（新町2GGC—A）③飯塚弘（陣ヶ峰A）▼一般女子の部①井上イミ（岡ノ町A）②熊倉ミヨ（親和会GGC—A）③西須フミ（親和会GGC—A）

**【団体の部】**▼一般の部①陣ヶ峰Aチーム②親和会Aチーム③陣ヶ峰Bチーム

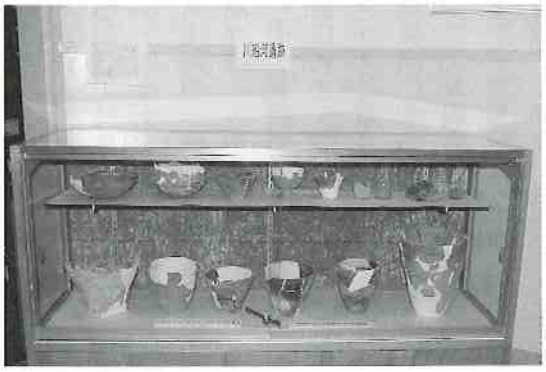
# 川船河遺跡出土品について

## ―民俗資料館考古展示室から(5)―

川船河遺跡は県央地域を代表する縄文時代晩期中葉を主体とした集落遺跡である。加茂と田上町境の舌状に伸びた標高三十五m程の段丘上にあり、現況は畑地となっている。今でも畑地から土器や石器が拾える地点として知る人ぞ知る場所である。早くから田上町の個人収集家により採集された磨製石斧、石鏃、土偶、石剣などが、加茂市民俗資料館に保管されている。

川船河遺跡は昭和三十四年に発見され、翌三十五年八月に学術調査が行われている。調査は加茂農林高校を中心とした中・下越地方の小中高の先生方で結成された「川船河遺跡団体研究グループ」により行われ、調査成果は地学関係の雑誌『地球科学』誌上に報告されている。それによれば、土器の鑑定に芹沢長介氏、指導者として岡本勇氏らの高名な大学教授の名が見え、本格的な学術調査であったことが知られる。

調査により、住居跡、貯蔵穴の一部を確認したが、全体を明らかにすることは適わなかった。しかし、リンゴ箱十個もの多量の遺物が出土し、ほぼ完全に復元された土器も十五を数えた。それらの遺物は、昭和五十八年に刊行された『新潟県史』資料編1にも収録され、高く評価されることとなる。



川船河遺跡出土土器（加茂農林高校寄贈）

出土遺物は、長らく加茂農林高校に保管されてきたが、平成十六年に一括して加茂市民俗資料館に寄贈された（写真）。

川船河遺跡では、学術調査地点から南側で新潟経営大学建設工事に先立つ緊急発掘調査が平成四年七月～九月にかけて行われた。夥しい数の柱穴や土坑が確認され、径六十m程の環状に建物が並ぶ集落跡が発掘された。出土した土器から縄文後期後葉を主体とすることが知られ、晩期になると集落を北側に移動させることが明らかとなった。

出土土器から、川船河遺跡は縄文時代後期後葉～晩期中葉を中心とした集落遺跡と見てよい。遺跡の立地環境や石器の種類などから主に狩猟、採集経済社会の範疇に位置付けられる。

晩期後葉を主体とする保明浦遺跡が川船河遺跡から北西約二kmの沖積地に立地するように、生業形態を違える基盤を持つ集落が成立し、もうそこまで農耕社会の波動（弥生文化）が迫りつつあることを感じさせる。

川船河遺跡は縄文文化の終わり頃に栄えた貴重な遺跡であり、学史に裏付けされた本地域を代表する縄文遺跡である。

（伊藤秀和）

---

## ありがとう

**社会福祉事業費として**

▼七谷中学校文化委員会から　七千五百五十円

▼北陸ガス株式会社から　一万円

▼赤谷地区青少年保護育成会小学部から　一万千七百十四円

▼加茂市連合婦人会から　一万二千六百五十九円

▼加茂中学校第十回卒業生古希を祝う会から三万三千六百五十七円

**都市計画費寄附金**

▼加茂ライオンズクラブから　ホタル川整備として　十五万円

**市内小学校・保育園・幼稚園へ**

▼小柳建設株式会社から　図書カード二十二万円分

**加茂市へ**

▼高橋健吉さん（新潟市秋葉区）から　錦鯉十八匹

---

### 人口のうごき

11月1日現在

| | | |
|---|---|---|
| 世帯 | 10,166 | (＋ 7) |
| 人口 | 30,674 | (－24) |
| 男 | 14,820 | (－11) |
| 女 | 15,854 | (－13) |

（　）内は前月比

（10月異動分）

出生 13（男 8 女 5）

死亡 23（男12 女11）

転出 41　転入 27

---

●発行　加茂市役所　新潟県加茂市幸町二丁目三番五号　〒959-1392　☎0256-52-0080　FAX0256-53-2729
ホームページ　http://www.city.kamo.niigata.jp　e-メール　kamo@city.kamo.niigata.jp
●編集　総務課　●印刷　㈱小野塚印刷所